



自宅で長寿をお祝い(9月10日生まれ)
9月11日
達曾部の佐々木タケノさん100歳

タケノさんの100歳を祝う会が自宅で開かれ、家族らが長寿を祝いました。大迫町で生まれ、18歳で旧達曾部村の源七さん(故人)と結婚。農業をしながら裁縫をして生計を支え、6人の子を育てあげました。現在は孫11人、ひ孫14人、玄孫2人にも恵まれ、自宅で元気に過ごしています。タケノさんは長生きの秘訣を、「優しい家族に恵まれ、気苦労なく過ごせているからだと思う」と笑顔で語りました。



一番搾りとれたてホップ生ビール仕込式
9月16日
最高のホップでビールを全国に

市の特産品・遠野産ホップを使用した同仕込式は、キリンビール仙台工場(末武将信工場長)で行われました。今年は日照不足などで生育が心配されたものの、菊池一勇組合長(遠野ホップ農業協同組合)は、「昨年よりも15%増しの収量。品質も十二分で最高のビールをお届けできる」と自信をのぞかせました。「一番搾りとれたてホップ生ビール」は今年で発売19年目。11月1日(火)から全国で販売されます。



遠野市地域・学校連携講演会
9月25・26日
最強の離島・海士町の挑戦学ぶ

豊田庄吾さん(島根県海士町学びづくり特命官)による講演会は、市と市内高校の連携協定に基づく取り組みとして開催。「大人の考え方・意識が変わることで子どもも変わり、地域らしさがアップデートされる」と講演しました。市役所を会場に、2日間で約70人が参加。遠野中校長の堀村亮利さんは、「地域に人が戻る仕組みづくりが重要。教育現場から地域を変えるヒントにしたい」と話しました。



教えて！ SDGs ゴール8.
「働きがいも 経済成長も」

ゴール8の目標は、持続可能な経済成長と、安全で生産的な雇用・働きがいある雇用の促進などが目的。「平成29年就業構造基本調査結果」(総務省統計局)によると、55.2%の人が仕事をしながら介護をしています。介護または看護を理由に仕事を辞める人もたくさんいます。介護など多様な生活背景を持つ人が働きやすい環境を整えることは、雇用や経済成長を促進するうえでも大切なポイントです。

8月23日 大府市小学生都市間交流事業

大府市児童3年ぶりの遠野

友好都市・大府市から小学生20人が3年ぶりに本市を訪問しました。同交流事業は平成20年に始まり13回目。児童は、3泊4日の日程で乗馬や魚のつかみ取り体験、遠野小児童との交流などを満喫しました。歓迎式で多田市長からカッパ捕獲許可証を受け取った神谷風雅さん(大府小5年)は、「遠野のカッパが赤いことをインターネットで調べてきた。いつかはカッパを釣りたい」と笑顔を見せました。



カッパ捕獲許可証を手にみんなでチーズ！

8月25日 道路愛護団体に対する岩手県知事感謝状贈呈
上糠前自治会に知事感謝状

住民協働による道路の草刈りやごみ拾いを行った上糠前自治会(青笹町)に県知事感謝状が贈られました。同自治会は10年以上にわたり、主要地方道釜石遠野線約5キロの草刈りを受託。年3回の草刈りと、独自に子ども会と連携したごみ拾いを続け、道路愛護活動に努めました。同自治会長の小水内秀一さん(青笹町)は、「先輩たちと同じく、地道な活動を継続していきたい」と意欲を高めました。



上糠前自治会会長の小水内さん㊨と前会長の藤原稔さん

8月28日 福崎町児童交流事業

佐々木喜善の足跡を巡る

柳田國男の生誕地で友好都市・福崎町の小学生15人が3日間の日程で遠野を巡りました。児童は、▷とあの物語の館▷伝承園▷こども本の森遠野——などを見学。土淵小の児童とも交流し遠野物語の世界を感じました。加瀬澤杏さん(福崎小6年)は、「佐々木喜善の生家に行くことができた。帰ったら、勉強したことや遠野のことをお父さんお母さんに話したい」と声を弾ませました。



遠野物語をきっかけに縁を深める小学生訪問団

8月29日 令和4年度 第24回わたしの主張遠野地区大会

中学生の思い、言葉に込め伝える

同大会は遠野東中で開かれ、市内中学生8人が日々の生活から得た気付きや思いを感情豊かに伝えました。最優秀賞に小水内華裏さん(遠野東中3年)が、優秀賞には佐々木悠貴さん(同)と鳥屋部琉愛さん(遠野中3年)が輝きました。「見えない境界線」と題し発表した小水内さんは、「心臓の音が聞こえるくらい緊張した。人権はみな等しく、自信を持って生きていくことが大切」と力を込めました。



最優秀賞を受賞した小水内さん